

第2回 町田市スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時 2018年3月1日(金) 18:30~20:30

場 所 市庁舎 10階会議室

出席者

川崎登志喜	委員(会長)	玉川大学教育学部	教授
永吉 英記	委員	国士舘大学体育学部	准教授
大川 武司	委員	南中学校	校長
山本 正実	委員	一般財団法人 町田市体育協会	理事長
市川 健一	委員	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会	副会長
守屋 実	委員	NPO 法人アスレチッククラブ町田	代表理事
柴田 智	委員	社会福祉法人悠々会	
		ケアフルクラブ悠々園	施設長

欠席者

宮崎 光次	委員	桜美林大学健康福祉学群	教授
佐藤 正志	委員	町田商工会議所	専務理事
新宅 雅也	委員		
菊盛 由利子	委員		

事務局

文化スポーツ振興部長	能條 敏明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課長	石田 一太郎
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	渋谷 晴久
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	伊奈 誠
文化スポーツ振興部スポーツ振興課統括係長	根岸 良美
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	清水 明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	喜多 和則
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	松尾 哲平
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	鈴木 朝子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	地福 友美
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	石川 典子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	武藤 玲美

傍聴者 0名

議事

1. 開会
2. 事務局より
3. 第1回審議会議事要旨の確認
4. 議事
 - (1) 2017年度スポーツ推進計画進捗状況について
 - (2) 町田市スポーツ推進計画5か年の達成見込みについて
 - (3) (仮称) 町田市スポーツ推進計画19-28策定の考え方について
5. 閉会

配布資料

- ・ 次第
- ・ 第1回スポーツ推進審議会議事要旨
- ・ 町田市スポーツ推進計画2017年度進捗状況 ……資料1-1
- ・ 2017アクションプラン実施状況調査 ……資料1-2
- ・ 市民意識調査要点 ……資料1-3(1)
- ・ 市民意識調査結果 ……資料1-3(2)
- ・ 町田市スポーツ推進計画5か年振り返り ……資料2-1
- ・ アクションプラン5か年達成見込 ……資料2-2
- ・ 計画の策定方針 ……資料3

議事要旨

1. 開会

事務局からあいさつが行われた。

2. 事務局より

配布資料の確認が行われた。

3. 第1回審議会議事要旨の確認

第1回審議会議事要旨の確認が行われた。

3. 議事

(1) 2017年度スポーツ推進計画進捗状況について

事務局が資料1-1、1-2、1-3(1)を基に説明を行った。

永吉委員 資料1-1で、スポーツ実施率が55%に下がった理由はどのように考えられるか。

事務局 回答者が、60～70代が多くなっている。スポーツをしていた年代層が高齢化しているのが原因ではないかと考えている。

川崎委員 年代が高い方が実施率が高くなっているので、回答者で60歳代以上が多いことは、実施率は上がるはずではないか。昨年度の年代を見るとわかるかもしれないが。

永吉委員 アンケートの配布数などは変わっていないのか。

川崎委員 国の調査でも実施率は下がっている。データから理由を分析してほしい。

市川委員 東京都の調査でも実施率は下がっている。なぜそうなったかを考える必要がある。

永吉委員 資料 1-2 をみると、全体ではスポーツをする人が増えているようだが、アンケートでは実施率が下がっている。なぜこのような違いが出るのか、原因を調べるべき。

川崎委員 地域スポーツクラブについて、七国山について、事務局で補足することはあるか。

事務局 学校開放運営委員が頑張ってくれて、準備会が立ち上がっている。

川崎委員 その地区には、もう一つ小学校があったが、そこを拠点として使うことはないか。

事務局 旧忠生第六小学校跡地は、健康増進施設として利用することが決まっている。

大川委員 地域スポーツクラブは、クラブ数 20 を目標としているが、スポーツ振興課としては地域にアプローチをしているか。

事務局 学校開放運営委員会にアプローチしている。

事務局 中学校に1つということで 20 を目標にしている。

大川委員 社会教育団体の方へもアプローチをしていたが、今はどうなっているか。

事務局 地域で説明会をしてきた。七国山もその中の一つである。

永吉委員 ホームタウンチームのホームゲームでの観客数も減少しているが、その理由は何が考えられるか。

守屋委員 去年は、天候が悪かった。しかし、天候が悪くて観戦に行くコアとなる人が少なくなっているようにも感じている。分析が必要かもしれない。クラブの方ではどのように捉えているのか。今年は、積極的に呼びかけをする。ホームゲームでなかなか勝てないということもあるので、ゼルビアには頑張ってもらいたい。

永吉委員 ペスカドーラも、観客数が減っているが。

守屋委員 ペスカドーラは成績もよかったので、心配である。

(2) 町田市スポーツ推進計画5か年の達成見込みについて

事務局が資料 2-1、2-2 を基に説明を行った。

守屋委員 資料 2-1 の2頁では、「アクションプランの着実な実施のための推進体制が確立していなかったため・・・」と記載されているが、自分は、現行計画策定時に、庁内の共通認識が必要であると発言していた。意識共有のための取組はどのようなことをしているか。

事務局 毎年、進捗確認のために各課に調査を行ったり、審議会の内容などを伝えてきた。しかし「スポーツのまちづくり」は、スポーツ振興課以外が行う部分が多く、上手くいかなかった。

守屋委員 庁内の意識共有は大切なことなので、今後もお願いしたい。

永吉委員 指標 3 について、天候が悪かったことの裏付けなどはあるか。

事務局 データとしてではないが、多くの試合で天候が悪かった。

永吉委員 試合数は変わらないか。

大川委員 「2 市民スポーツの環境づくり」は、施設開放が影響する。開放の枠が減っているところもあるのでは。

事務局 成瀬クリーンセンターテニスコートは、ハードコートであったが、利用者のケガもあり、人工芝に変えたところである。

- 大川委員 開放日数が減れば、利用者数も減ってしまう。管理費がかかるとは思いますが、市民のスポーツ機会を広げていくということでは、開放日数は減らさないで欲しい。
- 川崎委員 目標は、2018年までのものなので、来年に向けて頑張ることで達成できればよい。ゼルビアも、成績が上がれば観客も増えると思うので頑張ってもらいたい。5年間を振り返って、次の計画につなげていきたい。

(3) (仮称) 町田市スポーツ推進計画19-28策定の考え方について

事務局が資料3を基に説明を行った。

- 山本委員 次期計画の体系など概略としてはよいと思うが、懇談会の意見にもあったように、予算に結び付けないと実現しない。
- 川崎委員 やりたいが予算が取れないので未実施になっているものもあったと思う。
- 山本委員 スポーツに関する情報は、「広報まちだ」が利用されているとのことだが、実際には、他の内容が多く、スポーツの情報はほとんど発信できていない。スポーツのための広報の方法を考える必要がある。
- 川崎委員 広報は何部配布しているのか。
- 事務局 約13万5千部である。
- 川崎委員 計画ができれば、特別号を出してはどうか。
- 事務局 3月1日号ではペスカドーラの特集を掲載した。特別号の費用はそれほど高くはない。ただし、広報を主に読んでいるのは50歳代以上であるので、子育て世代には、別のアプローチが必要。教育委員会と連携して、小中学校にチラシを配ることを考えている。
- 川崎委員 フェイスブックやツイッターはどうか。
- 事務局 現在はやっていないが、検討中ではある。
- 柴田委員 新計画では、キャッチフレーズも考えているようで、よいと思う。指標については、数値の評価はしやすいが、適切なアウトカム指標を設定するのが難しい。感想のような評価をつかむことも必要。アクションプランは、適宜修正していくことが大切。
- 守屋委員 体系は良いと思う。財政的なことでは、民間の力を利用することが重要。しっかりした計画ができれば、市役所内で共有して進めてほしい。地域スポーツクラブは、数だけでなく、PTAの役員だからやっているような状況ではなく、しっかりした理念を持ったクラブを育てること。数にこだわるよりも、良いクラブが育つことを意識してほしい。
- 川崎委員 国も、地域スポーツクラブについては、量より質を重視し、PDCAできるようにと言っている。
- 大川委員 小中学生の意識を高めることが重要。全庁的に取り組んで欲しい。学校にゼルビアの選手が来てサッカーを教えてもらおうと、子ども達の目が輝く。本物を見ることは貴重な経験であり、応援したいという気持ちにもなる。もっといろいろな機会で紹介してもらいたい。次期計画の体系は良いと思うが、関係者が協力することが必要。
- 永吉委員 「基本目標3 スポーツ環境の充実」の中で「する」「みる」はあるが、「支える」を外した理由は何か。サポーターを育てていくことも大切なことだと思うが。
- 事務局 「基本目標3 スポーツ環境の充実」は、ハード整備を意図している。「支える」の言葉はないが、指導者は基本目標2、ボランティアは、基本目標4のまちづくりの方に入ると考えている。

- 永吉委員 「支える」という言葉を出したいので、基本目標2の中で「支える人を育成する」といった文言を入れることはできないか。
- 事務局 スポーツ団体の育成のところでは、地域スポーツクラブのことも、支える人の支援について入れていきたい。
- 永吉委員 スポーツをしないが応援はしたい人のことも大切にしたい。アクションプランでは具体的な取組が重要だが、検討の段階で力を持った人が参加してくれる仕組みが、進めていくためには必要。
- 市川委員 「支える」は、どこかで入れておくべき。年次目標は、スモールステップであるが、意識しすぎると大きな幹から外れていってしまうという弱点もあるので気を付けてほしい。障がい者スポーツは、「支える」がないと成り立たない。障がい者は、同じものを食べたり、あまり動かない人も多く、成人病予備軍になっているので、幼児や児童、生徒の頃から身体を動かす機会を増やせるとよい。計画を進めるためには財源が重要であり、基本目標4の中で、財源の確保についてもうたっておいてほしい。
- 川崎委員 パラリンピックのチェアスキーでも一人のアスリートに3人のサポートが必要である。障がい者スポーツでは、やはり「支える」が重要である。推進組織については、さいたまのスポーツコミッションのような、関係各課や民間も参加した組織で推進することができればよいかもしれない。
- 永吉委員 2020年のオリパラは学校教育ではいろいろ取り組んでいるが、健康や平和など広がりがあるので、計画の中でも何か目標を設定してはどうか。スポーツを推進するきっかけになると考える。
- 市川委員 基本目標1の(2)で「働き盛り世代・子育て世代」とあるが、ネガティブな意味で使われている印象がある。ファミリースポーツとか、楽しいイメージで進めてほしい。親子のチャレンジスポーツを行っているが、30～40歳代の親が喜んで参加している。以前、ファミリースキー教室を開催した時も非常に人気があった。
- 川崎委員 働き盛り、子育て世代といっても、独身者もいるので、何かよいキーワードが出せるとよい。
- 山本委員 基本目標3の(1)(2)が「スポーツ施設の充実」となっているが、広場も含まれるようにしてほしい。スポーツ広場とかの方が市民は親しみやすい。「場」という言葉ではどうか。
- 守屋委員 土日は、親子のイベントの需要が高いので積極的に進めてほしい。障がい者は、それだけというより、インクルーシヴの考え方で、障がいの有無に関わらず参加できるようにしてほしい。
- 佐藤委員 現計画の振り返りで、未実施や検討中が多いが、実施状況が高い場合は、目標値を見直して次期計画を進めるようにしてほしい。
- 事務局 指導員の育成などは未実施だが、学校の部活動への対応として、外部指導員の育成を進めていきたい。
- 川崎委員 次期計画は目標も適宜見直していくこともある。
- 柴田委員 高齢化が進む中で、健康寿命の延伸は重要であり、「する」だけでなく、若い人がするのを「支える」ことも大切。目標は、実現可能なものとして設定してほしい。
- 永吉委員 女性の実施率が低いので、女性のスポーツ推進も掲げてはどうか。実施率は季節によっ

でも変わる。4～6月は、雨も少なく実施率が上がりやすいので、この期間に、町田全体がスポーツで盛り上がるようなことができる面白い。

守屋委員 女性の実施率が低いので、上げる必要がある。

川崎委員 アンケートのデータ分析を基に、新しい施策を考えることができるとよい。

4. 閉会

事務局 3月8日に、次期計画について庁内の経営会議にかけることになっている。

以上